

## 式 辞

冬の寒さも徐々に和らぎ、武蔵野の大地に春の息吹が漂い始めました。この良き日に、卒業を迎えられた三百五十三名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、卒業式をこのように規模を縮小して挙行せざるを得ないことは、とても残念です。しかし、我々教職員の胸の中に本日の皆さんの立派な姿はしっかりと刻まれ、一生涯忘れることのない卒業式となるでしょう。

さて、私から皆さんにお話しするのも、とうとう最後となりました。最後は、皆さんが好きな夢の国「ディズニーランド」のあるキャストのお話をします。

ある日若い夫婦がディズニーランドに来園し、レストランでお子様ランチを注文しました。お子様ランチは九歳以下の限定メニューであり、マニュアルには「大人の方は注文できない旨をやんわり説明するように」と書いてあります。しかし、その時キャストを務めていた青年は、マニュアルから一歩踏み出し、「どなたがお召し上がりになるのですか」と尋ねました。すると、その夫婦は「死んだ子供のために注文したくて」と答えたそうです。

訊けば、そのご夫婦に授かった娘さんは生まれつき体が弱く、一歳の誕生日を待たずに神様の下に召されたのだそうです。夫婦は、いつかは子供と一緒に来ようと思っていたディズニーランドにやってきたのです。

キャストは注文に応じると、「ご家族の皆さま、どうぞこちらに」と二人席にいた夫婦を四人席の家族テーブルに移動させ、そのうちの一席を子供用の椅子に取り替えました。しばらくして運ばれてきたのは、三人分のお子様ランチでした。キャストは「ご家族でごゆっくりお楽しみください」と挨拶して、その場を立ち去りました。若い夫婦は亡くなったお子さんとの日々をかみしめながら、お子様ランチを味わいました。

今紹介したお話は、本来はマニュアルを破ることであり、職場での規則違反に値することです。しかし、本当にお客さんのことを思ったキャストの行為は「正義」だと思いませんか。確かに、どのような仕事にもマニュアルは存在し、最初はマニュアルに沿って仕事を覚えていくことが大切です。しかし、マニュアルはあくまでも基本でしかありません。それを越えるところに感動があり、お客様への本当のおもてなしがあると思います。

今後、A I やロボットが益々進化し、これまでの仕事の多くはA I やロボットが替わりに行う時代が到来すると言われています。確かにマニュアル通りに仕事をこなすことは人間より、A I やロボットの方が長けているかもしれませんが。しかし、相手のことを思いやり、今紹介したキャストのような心のこもった仕事は人間にしか出来ないと私は考えています。

皆さんの中には、いずれ直接お客様に接する仕事に就く人もいれば、お客様との接点がない仕事に就く人もいます。しかし、どんな仕事でも必ず誰かの役に立っています。相手が見えようが見えまいが、「敬愛」の精神を忘れず、心のこもった仕事ができるよう「努力」を続けてください。そして、そのことで皆さん自身が自分の仕事に誇りを持ち、幸せで豊かな人生を歩んでくれることを心より願っています。

それでは、卒業生三百五十三名の希望に満ちた旅立ちの日に当たり、その前途に幸多からんことを心から祈念し、式辞といたします。

令和二年三月十三日

埼玉県立川越西高等学校長

田中 聡